


法人名・施設名	社会福祉法人愛隣会 養護老人ホーム白寿荘	
所在地(住所)	東京都目黒区大橋2-19-1	
事業開始年月	1954年10月	
定員	168名	

●養護老人ホームとは・・・老人福祉法に定められた施設。身の回りのことが自分でできる「自立」した方や、見守りや声かけ、少しの手助けがあれば自分でできる65歳以上の方が対象。環境的・経済的理由で居宅生活が難しく、契約というシステムにはなじまない要養護高齢者が区市町村長の措置により入所する。費用は応能負担。社会的に疎外されたり受け入れ場所のない高齢者の住まいであるほか、生活支援を行い、3食の食事や入浴、余暇活動の提供などを行っている。

※以下は、2022年度にグランドデザイン推進委員会が実施した調査の回答をもとに、委員が施設・事業所に取り組みをヒアリングした一部概要です。高齢協の「アクティブ福祉グランドデザイン 7つの宣言」のどの宣言に該当か整理しています。

宣言1 私たちは、質の高い高齢者福祉・介護サービスを提供します。

利用者が健康で元気で明るく過ごせるよう、自ら楽しく選択できる活動の提供や役割の発揮をめざします。

白寿荘は、「明るく きれいに いつまでも」を目標としています。一般的に、施設は照明も雰囲気も暗いイメージがあると思いますが、掃除を徹底し、笑顔があふれる明るい雰囲気を心がけています。自施設にせっかくいらして下さった方に、健康で、お元気で、笑顔で、長くいていただきたいという思いを込めた目標です。

日常的に、利用者の「選べる楽しさ」を重視しています。食事でもクラブ活動でも、選択肢を多く用意し、できるだけフィットするものを見つけていただけるようにしています。楽しめるものを見つけられるとそれが元気を保つ秘訣になります、充実した生活に「選べる楽しさ」は不可欠です。

クラブ活動として、フラワーアレンジメントや書道、体操、カレンダー制作、自分史の制作、ヨガ、手芸、畑、パソコンなどのクラブ活動があります。コロナ禍ではコーラス、カラオケ、楽器演奏、踊り、料理の活動は休止しています。体操は、身体だけでなく心を軽くする呼吸の運動なども外部講師に指導いただき、利用者に喜ばれています。畑クラブでは、お花屋さんの指導のもと、保育園の児童と作物を育て、収穫も一緒に行っています。気難しい方も、園児といると顔が柔和になるのが印象的です。一方、お一人で「数独」パズルなどをされるのを好む方のことも尊重しています。



白寿荘では、動物も飼っています。「けなげに頑張ってるな、自分も頑張らないとなあ」と、小動物を慈しむ気持ちになるようです。利用者の喜びやセラピー効果につながっていると感じます。

また、人はいくつになっても「役割」の生き物です。誰かの役に立ちたいと思っています。そのため、小さくてもできるだけ活躍できる機会を作っています。利用者が食後のテーブル拭き、ゴミ捨て、タオルペーパーの補充、はき掃除、手すり

拭きなどを自主的にやったださり、自然と担当のような形になっています。「ありがとう」と言われることが力になっているようです。それは、年齢を重ねても変わらないのではないかと考えています。

施設のお手伝いをしてくださる方には、スタンプカードを差し上げて、日に上限3つまでスタンプを押しています。全36マスが埋まると景品を一つ選んでいただいています。皆さん、スタンプを集めることに熱心です。「やろう」の号令では誰も参加されませんが、やる気を自然な形で引き出すことを目的にしています。ご自分が好きなことをすると、元気が引き出せると思います。



利用者の選択や自治権を尊重し、自治会と施設とが協力して生活環境をつくります。

白寿荘には、約60年存続している利用者の自治会「信和会」があります。2年に1度、選挙で正副会長を決め、この2人が8人を選び、計10人(男性5人、女性5人)が役員となります。役員は利用者の代表、という位置づけです。

月に1度、「役員会」として、自治会の役員と施設長・職員による会議を開催しています。ここで、食事内容や洗濯の時間、人間関係など、さまざまな生活上の問題を話し合い、解決を図ることを続けています。自治会の役員さんたちが現場の声をあげてくださることを、職員も当てにしている部分もあります。

私たちは、住んでいる方々が持つ「自治権」を大切にしています。職員と利用者「世話する人・される人」という上下関係にはしたくありません。互いに気づきを伝え合うことで、少しでも快適に過ごしていただきたいと思っています。

例えば、コロナ禍での外出自粛期間中は、自治会からの希望を基に、室内で運動できるよう卓球台2台を購入しました。ほか、期限を決めてスポーツ新聞や浄水器も用意しています。また、テレビが見られない深夜の時間帯の番組を録画するための録画機能付きテレビ、施設内の図書室の本や漫画の追加購入、入れ替えなども行っています。高額な設備の要望には、見積りを基に導入条件をつけて提案し、相互に納得の上、規模を縮小して導入することもあります。役員の要望は利用者の要望だと考え、出来るだけ叶えたいと思っています。



利用者の中に「困ったら役員会で伝えよう」という認識があります。職員も「困ったら役員会で聞いてみよう」と対応することが多いです。自治会を尊重し、運営を安定させ、施設側と上手にやっていける組織にいくことには労力と時間がかかります。しかし、自治会活動も、養護老人ホームならではのお年寄りの元気を保持する方法にもなっていると考えています。

セーフティネット、「福祉」の役割を果たす養護老人ホームです。

養護老人ホームへの入所措置に至る主な要件は、「環境的・経済的な理由で居宅生活を送るのが難しい」ことです。養護老人ホームは、あくまで「福祉」の施設だと思っています。自分たちは最後まで「福祉」でありたいと思います。低年金・被虐待・後見人不在・精神疾患等の方は、介護保険のもと「契約」で利用する特別養護老人ホームには入りづらいのが現実です。そうした、本当に困っている方の力になりたいと考えています。

白寿荘においては、入所に至る措置理由は、虐待(身体的・精神的・ネグレクト等)からの保護が6割です。次いで、住む場所自体がなくなったり、家賃滞納・ゴミ屋敷・ボヤ等のトラブル等による立ち退きが3割、精神病院からの退院者や触法高齢者等が1割です。

こうした方たちは、養護老人ホームを退所されても安定して暮らせる場所がないことがほとんどです。例えば服役されても居場所があれば再度罪を犯さない方が多くいます。養護老人ホームには最後の引き取り手、セーフティネットとしての機能が求められています。ここが養護老人ホームの腕の見せ所であり、役に立ちたいと考えています。

白寿荘には、以前は子に1週間に200円渡され、カップラーメンよりも少しは長く食べつなぐことができる食パンを一袋買い、1日1枚を食べてしのぐ生活を送っていた方もいます。かなり過酷な環境で、お亡くなりになってもおかしくない。こうした方も、入所後は3食、バイキングで自分の食べたい食事をとり入浴できる生活になり、楽しみも生まれ、身体的にも精神的にも元気に健康になっています。養護老人ホームに入られた方は、入所前より元気になれるのが印象的です。



地域や社会のみなさまに知っていただきたいこと、今後の目標

- 養護老人ホームは、「福祉」の施設です。社会的に弱い立場にある方の最後の引き取り手、セーフティネットの施設として力を発揮し、役に立ちたいと考えています。しかし、なかなか措置されず、施設の稼働率が低下している状況があります。
- 現在、「契約」で利用する福祉施設やサービスが多くなっています。介護保険制度の「保険」や「契約」という考え方は万能ではなく、格差社会や自己責任社会の中で、一部では利用者を選んでいる状況もあると思います。「契約」が難しい方が、貧困ビジネスに取り込まれてしまうのではなく、きちんと措置され、福祉で救える状況になることが必要です。
- 養護老人ホームへの入所につながるかどうかは、窓口となる区市町村の行政担当者の措置の必要性の判断に左右されている状況です。もどかしさがあります。区市町村財源化されてから、各区市町村の考え方や財政状況によっても対応は異なっています。いま養護老人ホームで支えられている方たちは、同様の苦しい状況にいる方たちのほんの一握りでしかないとも感じています。

それでも、何とかしたいと考えてくれる行政の担当者から、対応の難しい方や他施設での受け入れが困難な方がいた時に、「白寿荘なら受け入れてもらえるのではないかと頼られる施設でありたいと思っています。そういう対応の難しい方たちに対応していくことで、稼働率が上がるとともに、自分たちの福祉力、支援力がアップしていくと思います。

- 「福祉」とは、「困ったときの杖」だと思っています。倒れて困ったときに杖がなければ、起き上がりません。一生必要のない方もいます。ただ、いま不自由なく暮らしていても、明日、交通事故で大けがをしたり、知人の保証人になって全財産を失ったり、家族に不幸が起きたりすることがあるかもしれません。それは誰にでも起こりうることです。

そのように転んでしまった時、起き上がるために頼れる杖があるかないかで大きく違ってきます。杖さえあれば人は歩けるし、生きていけるのではないかと、立ち上がろうと思ひ、生きていこうと思えるのではないかと。そういう杖のような存在が「福祉」なのではないかと思っています。養護老人ホームが、白寿荘が、そういう存在であり続けられるように進み続けていきたいと考えています。



取材概要

日 時 : 2023年3月3日
取材対応者 : 白寿荘 施設長 海老沼達雄氏
取材者 : 日の基青老閣 施設長 酒井雄佑氏
記 録 : 伊集院尚子(ニッセイエプロ)
取材補助 : 東社協高齢協事務局

